

Vol. 134

CONTENTS

【コラム】共通テスト『情報Ⅰ』業務の中で思うこと…平 千枝

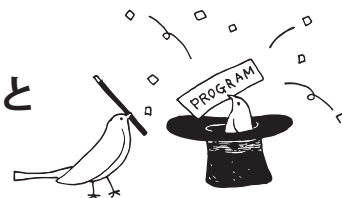
【解説】ブロックプログラミング言語を援用したアルゴリズム教育—EduBlocksを用いた授業実践——内田 保雄・玉城 龍洋・大西 淳

【解説】GIGA スクール構想、次の一步…佐藤 和浩



COLUMN

共通テスト『情報Ⅰ』業務の中で思うこと



筆者は大学で文化人類学を学んだ後、文部科学省に入省し、学習指導要領を担当した。その10年後の2018年、再び学習指導要領担当になった。高等学校で「情報Ⅰ」が履修科目となり、情報教育を担当する職員も増えたことに驚いたのも束の間、2019年には私自身にも情報教育担当の併任がかかり、さらに2020年からは大学入試センターで共通テストでの『情報Ⅰ』の出題などを担当している。情報について深く学んだことのない私が、情報教育へのかわりを年々深くしているのも、情報教育が重要な時代が到来したことの現れなのだろう。

かく言う私だが、実は、大学1年時に教養科目「計算機プログラミング」を履修していた。専攻分野に深くかかわる科目ではなかったが、シラバスで目についた際、「今後、何かの役に立ちそうだ」と直感的に思ったのである。しかし、他の履修者は工学部や理学部の学生ばかり。授業についていけなくなり、宿題にも苦戦し、学期末の課題は工学部の先輩の助けを得た。私が長々と書いたプログラムを、先輩はわずか5行のプログラムにまとめてくださった。その5行には、美しさを感じた。しかし、美しさを感じただけでは力は伸びず、期末試験の点数は悲惨なものだった。

苦い思い出となったプログラミングだったが、「学んでよかった」と思う場面は多々ある。大学入学を機にパソコンやインターネットを利用し始めた私にとって、それらは「魔法」だったが、プログラミングを学び、この便利さはプログラミングのおかげだと実感できた。また、幅広い業務（令和7年度共通テストでは、『情報Ⅰ』以外にも多くの変更があり、さまざまな検討が必要）と、育児など私生活を同時並行でこなす上で、何をどの順番でどう進めればよいかを整理できるのも、多様な条件を整理してコンピュータに処理を指示する経験をしていたのおかげだと思っている。

私も「情報Ⅰ」を高校で学んでいれば大学のプログラミングの授業でより多くを学べたろうに……という思い、そして、プログラミングがこれからの時代を生きていく上で役に立つという確信を胸に、今日も令和7年度共通テストに向けた業務に取り組んでいる。

大学入試センターでは、現在、令和7年度以降の共通テストの問題作成の方向性について検討しており、2022年11月を目途に『情報Ⅰ』と『旧情報（仮）』の試作問題などを公表する予定です。



平 千枝（（独）大学入試センター試験企画部試験企画課長（兼）事業部事業第二課参事）ch_taira@cen.dnc.ac.jp

2008年文部科学省入省。高等教育局大学振興課大学改革推進室学務係長（命）専門官心得、初等中等教育局教育課程課専門官（併）情報教育・外国語教育課専門官、（独）大学入試センター試験企画部試験企画課参事などを経て、2021年より現職。

LOGOTYPE DESIGN...Megumi Nakata, ILLUSTRATION&PAGE LAYOUT DESIGN...Miyu Kuno